



^ 5
4515
2



門 5
號 4515
卷 2



松七景

外ヶ濱

田代文政

昭和十一年
一月二十五日
購求

子うハ

日女乃

一
そ

らんこ

先師一葉居士の十七回忌もたれしに
ちやあてまはせしむるに
おぼしきあはれをたれしむるに



何れをいふ

追善はあまの抄より集むるに

おぼしきあはれをたれしむるに

おぼしきあはれをたれしむるに

おぼしきあはれをたれしむるに

梅庵

獨前 庵はあまの抄より集むるに

おぼしきあはれをたれしむるに

素心

染れおぼしきあはれをたれしむるに

在室

おぼしきあはれをたれしむるに

其秋

秋もまゝいさゝか
秋もまゝいさゝか 此 駿 之 野 也
ぬれど 龍乃 岸 柿 下 海 気
不 等 用 信 吾 得 の 多 記 寺 男
を ぬ ぬ 水 城 之 女 新 洗 足
花 山 之 子 風 小 春 之 名 能 舞 也 望 外
玉 解 魚 乃 菊 色 之 留 目 也 立 市
集 塵 集 塵 集 塵 集 塵

出歩 仍 七 眼 先 年 多 之 ぬ 様 可 辨
初 元 也 杉 葉 之 斗 燈 乃 松 竹 竹
花 之 燈 葉 之 燈 之 松 乃 花
朝 風 是 年 味 亦 予 終 之 月 庭 也
雪 乃 文 子 之 抄 也 也 紙 也 考
有 終 之 此 秋 之 藤 付 加 之 竹 婦 人
也 用 乃 雪 乃 亦 之 家 着 塚 之 形
不 可 何 等 樹 也 也 抄 也 次 梅 之 花
も け 進 之 下 り 高 理 社 也 月 日
集 山

三三

行雲此邊くも申のけ なるさくさく 七カシ条 南浦

袴着亭 筆堂なるけり 梅の花 星岳

河くまき 添く 雲く 比し 蕨の形 キタ条 謝客

走り帆の 所可 流く 追来く 舟計事 杜若

空く 雲く 下り 物 あり 森く 毛く トシノ 果山

秋の 萩や 舟 舟 渡 秋 秋 丸 音 南嶺

あり 時い 志く 舟 何の 望き 以 櫻 宗昭

あり 能く ると 心 あり けり 我 けり 杜若

教る 時も あり 能く あり けり 好 好 葉 藤秀

あはれ 子 傳 けり 秋も 道 あり 柿 秋 繁 遠高

秋 秋 中 種 あり 日 あり 毛 乃 あり 花亭

鶯の 声 あり 毛 乃 あり 小 春 乃 あり イナシラ 千學

啼の 声 あり 聲 あり 内 あり 雁 イナシ 梧青

鳴る あり 毛 乃 あり 牡丹 あり 斗角

中く あり 毛 乃 あり 覺 あり 菜 子 乃 あり 月山

張 法 あり 毛 乃 あり 川 あり 向 あり 菫 月

戸 あり 毛 乃 あり 毛 乃 あり 毛 乃 あり 一 折

ぬき 程 あり 毛 乃 あり 毛 乃 あり 毛 乃 あり 扇 雨

水月
 素心
 猶倚
 中心
 の秀
 嶺岳
 龍澤
 和堂
 曲枕
 於此月夜於此
 晴夕計事

新工
 花研
 美石
 佳堂
 苔月
 文高
 海才女
 子洗
 英州
 於霧也馬のつら落る荷あり常
 戸口よりたをさるる水や如く
 初松魚呼聲も霞も 海のぬき理
 夫れ遠く音はすしし中 雲をくも
 多に森なるも之のうらとく 福の浪
 此の里より一向子も啼き 如く海を
 空をけり中 顔のまを 人か如く
 う程し 所か眼も 涙を 福の露
 妻能雨如くも 曇る 眼鏡の丸

神河... 葉水
... 月舟
... ノ大
... 北峰
... 遠峰
... 敬高
... 白荷
... 周曉
... 葉南

... 中意
... 成字
... 柳
... 鏡
... 村
... 痛
... 風
... 松
... 月
... 天

よは思ふ草花を海に流すの山 ミツサハ 龜三
船路の波留るれは中 セシラシ 空舟

河津温泉をめぐりて香華をまきりて

舟路の波留るれは中 イマヤ 連舟
船路の波留るれは中 カサラフ 一瓢
鹿の群あはれ 西ラカハ 仙走
鼠尾の波留るれは中 モイシニシラシ 櫻若
舟路の波留るれは中 ユカ 三ヶ女
出仕者 イヤフ 玄蓑

如日也 駕まぬ 舟に 遊む 中

知内



以新秋の舟に遊む

舟路の波留るれは中 イマヤ 連舟
舟路の波留るれは中 カサラフ 一瓢
舟路の波留るれは中 西ラカハ 仙走
舟路の波留るれは中 モイシニシラシ 櫻若
舟路の波留るれは中 ユカ 三ヶ女
舟路の波留るれは中 イヤフ 玄蓑
舟路の波留るれは中 イマヤ 連舟
舟路の波留るれは中 カサラフ 一瓢
舟路の波留るれは中 西ラカハ 仙走
舟路の波留るれは中 モイシニシラシ 櫻若
舟路の波留るれは中 ユカ 三ヶ女
舟路の波留るれは中 イヤフ 玄蓑

自憫以人年遠了秋の嘗 マツシロ 月國
 水月能為活舟の小舟の丸 ウヘタ 志治
 海之秋と 唐も後を以て 野菊の イナリ山 棟炭
 空を秋の星残して 草のむく 社に マツモト 居る
 世を去る子孫も 形利其能月 イナ 標年
 思ふこと 人共 似中 放生會 コムロ 葛古
 遠業中 信也 其を ぬ 甚だ 之 秋 スハ 若人

扇も 志も 可う けり 也 紅川 京 梅室
 野中 碑を 町へ 志も 春も 秋 山 岱年
 屋敷 能水 田に 浮也 雲 志 雲 山 平山
 梅の 香も 秋を 騒がし 市の 侶 大サカ 標價
 空を 去る 也 後 残る 形 似 春 大サカ 洪豊
 出立 する 也 志の 美 葉 也 是の 月 大サカ 其山
 多る 其の 形 志 也 仕 舞 也 柳 可 也 大サカ 鼎大
 啼 中 人 志 代 志 歩 行 可 千 鳥 也 イセ 流芳
 仕 舞 移 能 也 其 志 也 唐 也 秋 可 也 イセ 桐一

的のけり人のを^カけ^シ着^ル度^ノ礼 是^レ疎
羽^ノあ^リ毛^ノ軟^キな^リつ^テ也^ノ雜^キ子^ノ然^リ聲 松^ノ白
音^ノを^シ心^シま^シく^テ、^カ音^ノが^ハ牙^ノが^ハ尖^リ音^ノを^シ理^ル ^カ音^ノ白
時^ノ鐘^ノも^ハ用^ハな^シ黄^ノを^ハも^ハ也^ノ 禱^ノの^ハ出^ル来^ル ^カ沙^ノ璃^ノ
漚^ノ心^ノを^ハ集^ル、^カ山^ノ日^ノ音^ノや^ハ枯^クを^ハ多^ク
素^ノ由^ノ也^ノ 屋^ノ風^ノれ^ハ世^ノの^ハ並^ルも^ハ何^レ
木^ノが^ハ社^ノを^ハ打^チを^ハ流^レけ^テ押^ス時^ノ為^シ也^ノ 柅^ノ為^シ
ち^ノ急^ク也^ノ 屋^ノは^ハ子^ノ音^ノの^ハ後^ヲを^ハ里^ル ^カ阜^ノ池
考^スる^ニ用^ハぬ^ル也^ノ ^カ二^ノ月^ノの^ハ水^ノ ^カ水^ノ竹

年^ノ禮^ノ也^ノ 取^レ次^ノ馴^レ 情^ノの^ハ多^ク
藪^ノ在^ルう^レな^リ草^ノれ^ハね^キつ^テて^ハ千^ノ鳥^ノ也^ノ ^カ香^ノ
雨^ノを^ハて^ハり^テ 繁^キも^ハこ^ノも^ハ也^ノ け^レの^ハ月 ^カ松^ノ竹
州^ノ多^ク ^カ江^ノ月 ^カ江^ノ月
端^ノの^ハ多^ク ^カ松^ノ竹
月^ノを^ハ智^ク也^ノの^ハ顔^ノを^ハ歩^ク ^カ桂^ノ丸
静^カ也^ノ 小^ノ藪^ノ也^ノ ^カ小^ノ草^ノの^ハ草
際^ノを^ハ時^ノ ^カ花 ^カ花
水^ノ草^ノも^ハ眼^ノ ^カ花
水

ヒタチ
ヒタチ

咲きしハ地中の由るまゝハ杜 菊 カキ 岩 イワ 岩 イワ
 はまらふハ折を起りし萩乃梅 イワ 杏園 イワ
 親玉萩の遠く遠河里長石山 上毛 竹畑
 雛石守中あまの行燈り又此と川
 よまきあまの遠き山又も也 初 庵 之 斗
 月能重山のそ大なる高の里針孝 一 菖
 如るりく 荷 船のそは屋蔭の如 瓢 糸
 とあつた 花のそは人重車ハ地遠く能 萩 荷
 能重し 園のそくく 花ハ針 里 如 琴

豆袋提子出く豆ふし 鏡 月 薑 十
 下駄りけくおのり里市理茶花苗 菖 圃
 河くまの七用音も起く古く如 天 部
 半七よりあまのそ高き柳り如 碧 香
 おのりあまのそ高き松葉如香 巴 明
 如のまのそ高き若母如く 鷗 鷗 墨 犬
 結ふまの解ふ手習と如 粽 一 如 汀 香
 接ふまのそ高き 妻の如 市 香 一 如 香
 心も如くも高き 如く 如く 如く 如く

集乃中一花吹也也也若乃口 分尾
 日重うけも能くも如杜 西馬
 黄乃此者も能くも如計事 素三
 潜りても者も也若乃如穀垣 三封
 火も乃も也ぬも花也若乃如子 一節
 中一也者も如能くも如如乃 乙人
 穉場乃志も如能くも如如乃如 何号
 若乃付も能くも如能くも如如乃 傳之雄
 志も乃も能くも如能くも如如乃 董江

穉也乃中一花吹也也也若乃口 飯傳
 解乃若乃中一也也也若乃如 松蔭
 庭者も如梅も如能くも如如乃中 碩布
 齋乃乃孩も我も如能くも如如乃 江平
 穉掃も如能くも如能くも如如乃 杉成
 花乃中一花吹也也也若乃如 五渡
 日乃一也も乃中一也也也若乃如 南
 うも如能くも如能くも如如乃 棠江
 心も如能くも如能くも如如乃 喉草

活舟のまふ舟の心もは理を杜舟 再々
 山をくくはるはたまはる月見の心 迎祥
 魚の群 魚群里 五十二
 あらまを初るもはるは 大恒
 秋風やなぬも思ふもまはる 麟二
 此ははるは 融石
 福はるは 齋高
 秋をまはるは 昌鄰
 舟はるは 鼎湖

まはるは 鬼角
 多程舟は 去高
 舟はるは 堤州
 見はるは 砥山
 日れはるは 大女
 夜はるは 由人
 粥はるは 麦露
 高はるは 海風
 舟はるは 示 ナカト

尚ふも恙ら多むたが秋の形 チクコ 小山
松蔭中 海堂年 馴て 映 秋 露 ヒセン 眉山
と川 秋也 是より ありて 和 哥の 浦 サツマ 波 文

月うり影の 浅き 針子 雲 能 上 外行 天 遊

茯苓より 燈も 消色 ぬ 秋 引 芦 滴

露あり 平 ありて 一毛 露も 見せ 家 子 白 桂

藪の中 露 ありて 以上 ぬ ありて 田 亦

紅花 根の 消し 色 以 筆 々 志 々 龍 毒 エト 溪 河

象の けの 刺 色 ありて 秋 是 何 ありて 田 面

雲の 秋 色 庭 我 け 針 子 多 引 井 健

柳の 秋 ありて 秋 ありて ありて ありて 彦 山

葉の ありて ありて ありて ありて 笠 山

庭の ありて ありて ありて ありて 谷 松 少年

月 秋 ありて ありて ありて ありて 徳 門

雲の 秋 ありて ありて ありて ありて 希 榮

露 ありて ありて ありて ありて 一 葉 女

樹の岸けの深り影を雨と集れ雲
覺悟し〜多雪も降〜を勢あう那
と宴へ身あ〜に時中采子能理
来れ能〜澄もあ〜を念佛
か〜あ〜を分あや飯の禮
おむけもか〜を里庭西松
梅も咲けを如を晴月〜れ
た〜を初日の影や不二鏡波
常盤木を雲もか〜を川櫻
お家
克明
柏堂
采湖女
塔道
若水
栞十
季夷
美巖

冥女あ〜を高河を海〜四月の那
田れ水〜新川花の月和〜雪
小車や一輪は〜月能河〜新
月〜日のむ〜の印〜を中時身
茶橋や〜川舟を松の風〜ゆ〜
思ふ〜月や垢離場も未戸の明〜を
あ〜魚のふ〜をや〜を能形色際
免飼〜を管〜を切〜を也素乃空
遠沙や松〜をか〜を能海苔指〜
風刺
文政
岐山
千春
長春
杜有
魯心
大鵬
遷流

日舟静々架うる静けり着れ也
水音の帯をくく此中寂然志操
人柳の好むその竹笋理過り花
素雪のし程をくく此中静けり
庵の竹の初色と雪居る純子
お子あやうく此中静けり素埃
とくあやうく此中静けり
居ればおやもえり此中静けり
如くえり此中静けり

壺川
栄内
庭
怡兮
一雅
松榮
溪尚
弟吉
護岳

音のしつと静けり此中静けり
溪河の音静けり此中静けり
春の海向ふ河の静けり此中静けり
帯雪の白く静けり此中静けり
春のあやうく静けり此中静けり
生海音の帯をくく此中静けり

月素
佳紫
直暮
回暮
田暮
双
梅笠

風朗
碓岩

妙多川登、高もきぬや、風水留
 由抄
 舟在、船鳴、鈴、花、空、の、と、里、郭、一、具
 一、具
 相、く、え、多、全、状、わ、た、り、し、と、浮、葉、草、
 茶、静
 二、新、燈、も、あ、ま、や、あ、ま、の、木、権、咲、
 只、叟
 迎、新、の、の、り、ま、の、や、を、た、る、高、蒲、賣、
 山、外
 見、之、透、之、新、も、手、為、手、新、寒、之、身、
 候、帰
 稚、子、泣、啼、山、脚、を、あ、く、と、小、田、の、人、
 了、知
 如、の、心、を、た、る、是、や、桃、乃、花、出、の、る、
 粗、文
 有、合、の、飯、味、も、寺、の、四、月、の、船、
 具、外

河、舟、を、り、仕、籠、り、迎、新、花、を、あ、く、好、
 抱、像
 繁、花、を、り、能、哉、ま、は、由、の、也、在、船、
 深、く、女
 松、魚、舟、の、り、出、る、ま、る、小、妻、う、幸、
 若、翁
 折、り、け、多、ま、り、目、を、強、く、梅、乃、花、
 撲、翁
 梅、乃、下、傳、中、の、約、束、也、と、能、休、
 畧、支
 降、雪、我、之、身、也、新、屠、蘇、の、機、嫌、也、
 氷、肌
 字、之、死、の、り、一、日、啼、し、小、敷、の、鈴、
 細、綿
 四、五、輪、小、目、を、経、た、梅、乃、寒、く、氷、
 玩、南
 崩、落、舟、の、鈴、籠、能、あ、ま、の、陣、如、也、
 荷、了

わくわくもさるる庭もや東の風 露若
 と朝の秋も扇一すくぬ 笑う所 得甚
 新もさぬ草いなま多能世はくし 惟草
 窓揺れあはれをのまき年木葉 風外
 山もせぬ梅もくぬさる小葉も草 尔亦
 岸の花も無枝もはなはたけの如 逸例
 是の如くし向き居る如く花の如 八葉
 月も流し山田の露もく日あらし 墮物

父の如くしとる老の浪
 赤い花もさるる庭もや東の風
 まいぬ智恵はくぬ門に在る子 梅香
 前にもさる出代新人教極さ世も 一之
 水もさる大いり三れはさる入る 吐佛
 秋もさる不換様はくさる月共の 白香
 露もさる流るる柿の赤もさる 薑舟

標塵

州中... 聲... 冷... 完和
 天... 氣... 初... 只...
 細... 梅... 人... 海... 沙... 筭...
 流... 之... 駒... 之... 驚... 不... 飛...
 張... 之... 跡... 海... 之... 極... 之... 處... 之... 處...
 了... 之... 氣... 館... 之... 之... 之... 之...
 校... 川... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 時... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 也... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

荷... 能... 小... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 二... 階... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 前... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 念... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 初... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 流... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 流... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 波... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
 魚... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

習を理則をくり子に里れ風俗 一陽
 耳白紗をきると加熟なり 白鶴
 荷替をうめ小跡に在る 昔標
 高燈籠能きうけりせり 真商
 行きし月に出臨り雨降天 南中
 今年志芽を能く社も大粒 多葉樹
 去りてくを産む婦人ありて 燕水
 孫等久き能く多心社家の若 松月
 権能亦なきむす花ありあまふと木 和明

羽たのきもとけ 香重なり 乃る 園花
 集あき勢菊落し 手持あね 洞松
 志むけり 足程と 永変町 前 梅哉

忌辰をむくのし 今能習のやう務 標磨

父乃後母はさう回しををまむ 七度其能き心 梅堂
 うは向く能き心 時をさう 梅堂

程之居を討つた遊芸者のこと
に似て美しと云ふ一ふくもあ

竹烟

落はるぬ本は葉も一知り物あり
暮秋人とみゆきもことなき日

梅屋

善信場乃よこいよ女のふ貝吹と

笠山

和老く事ふくは是ぬ燃ふ

危丁此おりにし歌船乃月

誰よりきりやる居る少くしこれ摺ま物

町作はりしやと共おれを糸

卯乃時あきのしきりし記

おしししとる夜帰れはきれ

嘆ふりり者れうとふ夏葉

弁南乃及び月と酒と

市下於此おき浦はさ澄る

之

ら〜〜〜
露角子
小解乃
瘡了
少中亦
荷の
一折
烟
蓬
山
意
之
孔



中
毛
正
志
生
其

其のむくまのうらみおのれはしるはた
いふもあはれなるも今之体はむらも
あはれなるものなりしむらも
あはれなるもむらもあはれなる
あはれなるものなりしむらも

あはれなるものなりしむらも

あはれなるものなりしむらも

あはれなるものなりしむらも

雲巢老人牛書



